

第 48 回 年次大会報告

羽二生 望

1. はじめに

公社)日本技術士会北海道本部の第 48 回年次大会(旧称定期総会、今年から名称変更)が 2013 年 7 月 26 日(金)ホテル札幌ガーデンパレスで開催されました。年次大会資料を、本会誌後ろの年次大会報告に掲載していますのでご覧ください。ここでは会議の概要と講演会、懇親会の様子を中心に報告します。



写真-1 右より能登本部長、中野・大熊・布村副本部長

2. 年次大会

本会の公益社団法人への移行(平成 23 年 4 月 11 日)に伴い、地域本部の予決算が統括本部総会での一括審議事項となりました。これに伴い、従来の地域本部の「総会」は議決機関ではなくなったため、名称を「年次大会」と変更して、定期報告事項を中心とした内容で開催されることとなりました。

(1)出席状況

- ・本部会員 128 名
- ・会友他 28 名 合計 156 名

(2)開会挨拶

開会挨拶に先立ち能登本部長より、このたび本部長を退任された斉藤特別顧問のご紹介があり、会場出席者の拍手を以ってその功績を称え労うこととな

りました。開会挨拶に続いて、英米と対比した日本技術士会の現状、会友制度の動向、入会促進と会存続の意義、今年開催される全国大会(札幌)に向けた活動などについて報告が行われました。



写真-2 能登本部長開会挨拶

(3)報告事項と質疑応答

①第 1 号報告(平成 24 年度事業・決算報告)

森事務局長より、平成 24 年度の事業及び決算報告が行われ、船越会計監事の監査報告後、質問・意見等はありませんでした。

②第 2 号報告(平成 25 年度事業計画・予算)

前号に続けて、平成 25 年度の事業計画と予算についての説明が行われました。

今年の事業計画では、既定の事業は従来どおりですが、札幌で開催される全国大会が最も大きな活動となります。予算についても一般会計では、全国大会予算の約 1,500 万円と既定の事業予算約 1,700 万円を合わせて約 3,200 万円規模の予算となりました。収支の不足分は全国大会積立金ならびに活動全般のコストダウンにより対応予定です。特別会計では、平成 24 年度からの統括本部共通ルールである実費精算方式の影響が読めない中で、前年実績を踏まえ、前年比 100 万円減額の約 300 万円の予算となりました。なお、詳しい予算内訳等

は、本会誌後ろに掲載の大会資料を参照願います。

ここでは、会場から会計費目の表記方法について2件の質問・意見がありましたが、いずれも統括本部規定で指定された統一表記であることを説明し、了承いただくこととなりました。



写真-3、4 会場・質疑応答風景

③第3号報告(役員の選任について)

平成25～26年度の今期役員について、能登本部長より報告と紹介が行われました。

④第4号報告(北海道本部の組織改訂について)

組織改訂、名称変更について、事務局より報告、説明が行われました。

公益社団法人日本技術士会の地域本部に関わる諸規定が制定され、それに伴い「北海道本部の運営における個別事項に関する手引き」を作成中であり、一部組織は名称が変更される予定です(ex. 研究会→研究委員会、地方技術士会→技術士委員会など)。

⑤第5号報告(日本技術士会会長表彰者)

表彰規則第5条に基づく会長表彰者の北海道本部からの受賞者3名が、事務局より報告、紹介されました。北海道本部推薦では阿部均氏、大島俊之氏(欠席)の2名と、統括本部森林部会推薦の渡辺宏氏、北海道本部からは計3名の受賞となりました。

(4)閉会

議事終了後、能登本部長の閉会宣言に際し、2期4年に亘り本部長の大役を務められた前本部長、斉藤特別顧問に向け、再度、会場の拍手を以って感謝



写真-5 斉藤特別顧問

の意を表しました。斉藤特別顧問からは、一時期体調を崩したが今は復帰して元気であること、今年は、優れた人と技術が集うことで成り立つ北海道の力を全国に示し、是非とも全国大会を成功させましょう、とのご挨拶がありました。

3. 講演会

(1)講師のご経歴

今回は、札幌在住のチェンバロ奏者であり、現代版北前船プロジェクト副代表としてもご活動中の明楽みゆき氏をお招きして、「豎琴の音色と共に、北前船の縁を繋いで…」と題して、語りとチェンバロの演奏で綴るご講演を賜りました。

講師の明楽みゆき氏は、京都のご出身。大阪音楽大学音楽学部をご卒業後、同学部専攻科を修了され、大阪音楽大学附属音楽院、大学講師を経て、現在札幌にてフリー活動をされています。



写真-6 講演・明楽みゆき氏

2010年6月には、江戸時代に北海道と大阪を日本海で繋いだ北前船をテーマに、全国各地の歴史と文化を繋ぐ「現代版北前船プロジェクト」を立ち上げられ、各地での文化交流を含む経済交流を通して、異業種間の連携と未来を見据えた地域振興活動を展開されています。

(2)講演・演奏の概要

今回の講演は、6つの曲目の演奏の合間を講話で繋ぐ形で行われました。

①演奏1:「アヴェマリア」(J.S. バッハ・独)

○チェンバロについて

- ・ 豎琴(リラ)からチェンバロへ、そして現在のピアノが生まれた。
- ・ 人間(声楽)は高音から低音まで自ら調節できる。

豎琴は弦の長短でその音域を増やすためサイズが大きくなり、やがて寝かせて鍵盤が組み込まれチェンバロとなった。



写真-7 演奏・明楽みゆき氏

- ・イタリア発祥の楽器でベルギー～オランダと広がるうちに、花模様の装飾が施されるようになり「フレミッシュスタイル」と呼ばれるのが今日演奏に使っているもの。
- ・蓋裏にはラテン語で「音楽は喜びの友、悲しみの薬」、「音楽は労苦の慰め」という二つの格言が記されている。
- ・チェンバロの発音は0.33mmの爪(クイル)がついたバー(ジャック)を鍵盤で押し上げて弦を撥くことによって行われる(撥弦楽器)。私を含めチェンバロ演奏家は、さらにこの爪を研ぎ澄まし(ヴォイシング)自らの音色を創り上げていく。
- ・鍵盤を押して爪で弦を撥く際、往復の行程でも発音が1度なのは、ジャックが戻る際に爪のついた部分(タング)が小さなバネの仕組みで弦を避けて戻るといふ、極めて精密な仕組みによる。



写真-8 チェンバロ
(フレミッシュスタイル)

②演奏 2:「懐かしき木陰にて」(G.F. ヘンデル・独)

○北前船の活躍は江戸時代から

- ・私の先祖は150年前の近江商人「初代増田利兵衛」。「夕べに星をいただき、朝に星をいただき」と行商に精勤することによって商いを駆け、三隻

の千石船の北前船を所有するに至った。

- ・当時の商人達は、仕入れ～仲買～販売を一貫して各地域に入り、今で言う「マーケティングと商品開拓」により商圈、販路を拡大していった。
- ・北前船は江戸時代中期以降、日本海～瀬戸内海を往来し、各寄港地に積荷と文化を運び、北海道と各地を結びつけた。代表的な商品が北海道のニシン糟(肥料)、昆布、砂鉄。これを当時北海道内で産出されないムシロを本州から持ち込み、



写真-9 講演・明楽みゆき氏

梱包して俵物として全国へ運んだ。

- ・先に演奏した2曲の作家バッハ、ヘンデルは、この江戸時代と同時期に活躍したドイツの音楽家。
- ・そしてフランスでは、ルイ14世、ベルサイユ宮殿に象徴されるロココ調の時代。音楽も、次に演奏するような修飾の多い、華やかな曲調のものが多く生まれた。

③演奏 3:「王の舞曲」(J-ph. ラモー・仏)

○チェンバロからピアノへ

- ・ルイ16世の時代にはフランス革命が起き、貴族の贅沢と目されるものは片端から破棄され、その象徴のひとつとされたチェンバロも、そのほとんどが壊されてしまい、当時の歴史からいったん姿を消すこととなった。
- ・この後に重厚なピアノの誕生となるが、時代は音楽もビジネスとしての側面を含んだ楽器、楽譜の生産となる。現在のピアノの鍵盤は88鍵と万国共通であるが、共通プラットフォームによる効率的工業生産の所作とも言える。

④演奏 4:「この道」、「からたちの花」(山田耕筰)

○「現代版北前船プロジェクト」とは

- ・江戸幕府の「おふれ」で三草四木政策というものがあった。有用な三草(藍、ベニバナ、麻または木綿)と四木(桑、漆、楮、茶)の作付けを奨励し、当時の日本経済の礎を築いた。例えば藍と木綿は有名

な岡山ジーンズの素となったもの。

- ・これが全国で肥料の需要を生み、そこに北海道のニシン糟を運んだ北前船の役割がクローズアップされる……という、今から 150 年前のお話。
- ・その歴史文化を再認識し、古事に倣い現代での再現を目指すこと。北海道のニシン、昆布を運んだ北前船のように、芸術・音楽や人と食などで北海道と北陸 200 箇所余りを繋ぎ、文化と経済の交流を図ることが「現代版北前船プロジェクト」の主旨。

○今日のしめくり～私の大好きな曲

⑤演奏 5：「なだそうそう」(BEGIN)

以上、会場の大きな拍手喝采を以って講演は終了しました。

4. 懇親会

(1)出席状況

定刻 17：45 より会場を隣の部屋に移して懇親会が開催されました。懇親会は会員他 84 名の出席によりほぼ満席での催しとなりました。

(2)懇親会の状況

盛況の中、森事務局長の進行により、能登本部長の開会挨拶、中野副本部長の乾杯の音頭にて開宴となり、懇親会がスタートしました。



写真-10 懇親会風景

懇親会では各テーブル席での歓談に留まらず、席を移動しての挨拶、名刺交換、情報交換が活発に行われましたが、その中でも本日の講演会ですばらしい演奏を披露していただいた明楽みゆき氏に、会場内で最も多くの名刺交換が殺到したようです。

開宴後は明楽氏からのご挨拶、ご感想を戴いたのち、会長表彰受賞者の阿部技術士による挨拶がありました。また、北海道本部組織改変に伴い、各委員会の新委員長、ならびに地方委員会(旧地方技術士会)を代表して布村副本部長からの挨拶がありました。



写真-11 4 人の新委員長(壇上左から永井委員長、加藤委員長、中野委員長、佐崎委員長)

各テーブルでは乾杯と歓談が続き、名残惜しさも尽きないままお開きの時間となり、前本部長斉藤特別顧問からの退任ご挨拶、大熊副本部長の一本メを以って懇親会は中締めとなりました。



写真-12 大熊副本部長の一本メ

そして最後に森事務局長からは「全国大会を成功させましょう」との言葉が添えられました。



写真-13 森事務局長

5. おわりに

平成 25 年度の活動は既に始まっ

ていますが、今年 10 月にはいよいよ技術士全国大会がこの札幌での開催となります。会員・会友の皆様のご支援・ご協力と積極的な大会ご参加を、何卒よろしくお願い致します。

羽二生 望 (はにう のぞむ)

技術士(建設/総合技術監理部門)

日本技術士会北海道本部 事務局次長
株式会社 ドーコン

